

秋映、千秋・・・朝晩はめっきり涼しくなり、りんごのおいしい季節になりました。「あきばえ」、「せんしゅう」りんごの品種名をご存知でしたか。現在会員登録数 912 人さま。ご愛読いただきありがとうございます。次号は 11 月 20 日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 26

《3》 サイト紹介 -子どもの本をリサーチする-

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 国際講演会 参加者募集

演 題: 「Power of Imagination — 想像から生まれる力

国際アンデルセン賞作家 デイヴィッド・アーモンド自身を語る」

講 師: デイヴィッド・アーモンド (英国・児童文学作家)

通訳: 多田昌美 (美作大学准教授)

日 時: 平成 24 年 11 月 3 日 (土・祝) 午後 2 時～4 時

場 所: 大阪府立中央図書館 2 階大会議室 (東大阪市荒本)

定 員: 80 名 (申込先着順) 参加費: 1000 円

主 催: 社団法人 日本国際児童図書評議会 (JBBY)

共 催: 財団法人 大阪国際児童文学館

助 成: 子どもゆめ基金助成事業

詳細は → http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/24almond.htm

※他の会場での開催予定

10 月 30 日 (火) 岩手会場 17:00～ なはんプラザ (花巻市)

11 月 5 日 (月) 東京会場 13:30～ 津田ホール (渋谷区)

11 月 7 日 (水) 東京会場(2) 18:00～ 津田ホール (渋谷区)

詳細は → <http://www.jbby.org/news/index.html?c=2#113> (JBBYのサイト)

● 「おはなしモノレール」参加者募集

大阪高速鉄道「万博記念公園駅」から「彩都西駅」まで、貸切モノレールに乗って、車内で絵本や「おはなし」を楽しみ、彩都の会場では「人形劇」を観ていただくお子様向けのイベントです。

5 歳から小学校 3 年生までのお子様と保護者の方、あわせて 240 人を募集し

ます。11月11日（日）の午後で、参加費は、お一人500円（大人・子ども同額）です。申込締切は10月29日（月）必着、詳細は↓↓
http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html

●「万博のころ子どもだった…in EXPO'70 パビリオン」展
吹田市 万博記念公園内 EXPO'70 パビリオンで、1970年代の子どもの本や雑誌の展示&イベントを開催します。
11月1日（木）～29日（木） 展示 会期中無休、入場無料
11月18日（日） 人形劇&おはなし会
11月23日（金・祝） 街頭紙芝居 詳細は↓↓
http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/24expo70.htm

●「第29回ニッサン童話と絵本のグランプリ」作品募集
アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（水）です。詳細は↓↓
http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 寄付金を募集しています
当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。
お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『おまけ鳥』 飯田朋子/作 長野ともこ/絵 新日本出版社 2012年8月
対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：中学1年生の翔の家は、両親と障害のある姉の梓で店をきりもりしているラーメン屋。そこへ母が特別支援学校高等部3年生の芳君を連れてきて、梓、翔、翔の幼馴染のみつるを巻き込んだ父による餃子講習が始まる。しかし、芳君は、パニックに陥ったり、餃子を一つ作るたびに手を洗ったりする。梓は鳥の形の餃子を作り、お店でおまけとして出されるようになる。『だんご鳥』（2007年2月）の続編。

- Y：梓と芳君が描かれることによって、いわゆる「知的障害」といっても一人一人個性が違うということが伝わってくる作品でした。
- O：そのことを翔が自然に受け止めている様子がよくわかって、読み終わってから、巧みな作家なのだと思いました。
- Y：そして、その翔も恋愛や友だち関係で悩み、梓や芳君との関係の中で元気づけられたり、学んだりする。支援する側される側ではなく、人間同士の関係として描かれている点が当たり前とはいえ、楽しく読みました。
- O：猪突猛進型のお母さん、お母さんのパワーに押されているようで子どもたちをしっかりと支えているお父さん、近くに住んでいて俳句の趣味を楽し

みながらも倉田家を陰からサポートするおばあちゃんなど、大人たちも、ひとり、ひとりがリアリティーのある大人として伝わってきました。

Y：大人もカンペキではなく、失敗をしたり、悩んだりしながら、家族として毎日を生きていくという前向きな感じが、読んでいて暖かい気持ちになりました。

O：視点人物である翔の大人を観察するコメントがユーモラスで、くすっと笑ってしまうね。本の装幀からも、そのユーモラスであたたかい感じが伝わってきます。

Y：表紙には鳥の形の餃子と最後のクリスマスイベントを表したクリスマスツリーと粘土細工の好きな翔が作った粘土のインコと翔と梓の二人が散りばめられていて、作品をうまく表現しています。

O：敢えて言うなら、最後にみつるが和太鼓をたたき、倉田家は芳君と一緒に餃子や粘土細工を売り、翔のあこがれのあや子もやってくるというクリスマスイベントが、ちょっと「予定調和」すぎて、美しすぎるかな。

Y：イベントによって、作品にまとまりができた半面、ちょっと無理しているようにも読めますね。いずれにせよ、続編を読みたい気持ちになりました。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 26

その6 絵本の読み方(1) 集団の子どもに絵本を読むとは？

集団の子どもに絵本を読むということは、読み手と聞き手として、絵本の物語世界を共有するということであり、読み手は、絵本をしっかり読みこんでどんな物語世界を聞き手と共有するのかを意識して読むことが求められます。つまり、読み手の解釈が声やページのめくり方によって、聞き手に伝わり、双方にコミュニケーションが成立します。

そのためには、まず、読み手が、自分自身をリラックスさせ、息をはきながら、声を出すことができることが重要です。体に力が入っていると、聞き手もリラックスできません。そして、声が聞き手のいる場所に届くことが必要で、自分の声の距離感が意識できるとよりコミュニケーションが容易になります。

読み手は絵を見せながら自分の声で物語を届けます。ですので、落ち着いた色調の絵が描かれていれば、落ち着いた読み方を、エネルギッシュで、色鮮やかな絵が描かれていれば、元気で明るい読み方になります。

そこで、集団の子どもの前で絵本を読むためには、まず、自分自身が作品をとらえることが必要です。表紙が意味するもの、構成、登場人物像、絵や言葉の表現の工夫などを読み解き、選んだ作品が何を伝えようとしている絵本なのかを考えます。解釈が異なれば、タイトルの読み方から違ってきます。

『どろんこハリー』（ジーン・ジオン/文 マーガレット・ブロイ・グレアム/絵 渡辺茂男/訳 福音館書店 1964年）を例にとってみましょう。

タイトルは、作品を象徴するものであり、読み方が読者にどんな作品かとい

うイメージを与えます。「どろんこ」の部分で、「どろどろにして困った犬」という言い方で読むのと「どろんこって楽しい!」という言い方で読むのでは、聞き手のイメージが異なります。表紙の絵を見せながら「ハリー」の部分をとて静かな声で読むと、絵のハリーはとまどった犬の表情としてとらえられ、元気な声で読むと、前向きで明るいハリー像を持って聞き手は絵本の世界に入ります。

* 次号は「その6 絵本の読み方(2) 声でイメージを届ける」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

一次資料データベース篇6回目。今回ご紹介するのは以下のサイトです。

●神戸大学附属図書館 デジタル・アーカイブ新聞記事文庫

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/sinbun/index.html>

神戸大学の「新聞記事文庫」は、明治末から昭和45年まで、60年以上にも渡って続けられてきた新聞切抜資料の蓄積です。昭和に入り、戦争下も取り組まれたこと(継続的)、採録対象紙が多いこと(網羅的)などが特徴です。

国内主要紙、地元紙はもちろん、調査しづらい各紙地方版の記事や、旧植民地・外地の諸紙が収録されていることは特筆に値します。記事は、経営・経済を主体としつつも、社会・政治外交・法制・教育など広範に及び、記事数は約50万件。児童文学では、どのような新聞記事が収録されているのでしょうか。

試みに、〈児童〉 & 〈雑誌〉で検索してみたところ、166件がヒット。1915年(大正4年)当時、関西(大阪・京都・神戸)でどのような児童誌が読まれていたかを伝える「少年雑誌の勢力」(大阪毎日新聞)は、幼年・少年・少女のカテゴリに分けて人気雑誌の購読部数を紹介しています。幼年では「幼年画報」が圧倒的な人気で他誌(「幼年の友」「幼年世界」「日本幼年」「子供の友」等)を桁違いに引き離している様子や、少年では「日本少年」「少年世界」が拮抗、少女では「少女の友」と「少女世界」が人気を二分している実態を伝えています。

また、外国に輸出する商品としての玩具を研究する「おもちゃ展覧会」(1923年(大正12年)、東京朝日新聞)の記事や、巖谷小波の投書記事などもありました。

記事は、全文フルテキスト検索が可能ならに、記事イメージの他に全文の電子テキストが公開されており、引用などにも大変便利。検索時に投げたフレーズは、記事のなかで着色表示され、見た目にもわかりやすく工夫されています。経営・経済が中心ですが、関連記事も多い新聞記事文庫。一度、興味あるテーマの記事を検索してみてください。(J)

※次号は、一次画像データベース篇〈その7〉の予定です。

《4》 行って来ました！

明石市立文化博物館で開催中の「ウィリアム・モリス展」に行ってきました。ウィリアム・モリスは、19世紀後半に詩人、デザイナー、工芸家としてなど、いろいろな分野で活躍した人ですが、イギリスのファンタジーの源泉として、『ナルニア国物語』のC・S・ルイスなどにも影響を与えたほか、日本では宮沢賢治がメモにその名を記すなど、モリスの思想に関心を持っていたと言われています。どんな人なのか、興味を持ちました。

今回の展覧会では、モリスや仲間たちがデザインしたステンドグラスや織物、壁紙などを中心に展示されています。ステンドグラスはバックライトフィルムで再現されていて、教会の中にあるような厳かな気分になります。織物やプリントされた布は100年以上も前のものとは思えないほど色鮮やか。

あらゆる室内装飾を手がけることを目的に設立したモリス商会では、自ら家具もデザインしていたそうです。敷物やカーテンと、絵付けタイルで装飾された暖炉や刺繍のついたて、座り心地がよさそうな椅子などを居間のように展示しているコーナーでは、思わずそこで寛いでみたくなります。モリスが敬愛した自然をモチーフにし、花や葉が蔓のように絡まる植物や、鳥やうさぎなどの動物が描かれた壁紙は、どんな部屋に似合いそうか想像しながら見ていきました。モリスのデザインしたゴールデン体という活字を使った著書も展示されていました。

これらの作品の背後には、モリスが先導したアーツ&クラフツ運動の思想があります。社会生活がよくなってこそ、真の芸術が生まれるという思想のもと、職人的な仕事を大切に、人々の暮らしに芸術性をもたらそうとしたモリスの生き方が作品全体から感じられました。このあたりに、宮沢賢治も共鳴したのでしょうか。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 講演会「私がつくったミンダナオ子ども図書館」

講 師：松居 友（ミンダナオ子ども図書館 館長）

日 時：平成24年10月27日（土）午後1時～3時

場 所：和泉市立人権文化センター（ゆう・ゆうプラザ）4階第1研修室

定 員：30人（申込先着順）

参加費：無料 申込み：必要

主 催：和泉市立人権文化センター図書室（にじのとしょかん）

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

